

くすふれ愛だより

2月号

【編集発行】
 玖珠地区コミュニティ
 運営協議会
<http://www.kusu-community.jp/>
 【事務局】
 くすふれあいホール
 (玖珠自治会館)
 72-1511

無病息災を祈願して… 「どんど焼き」

今年も各地区で「どんど焼き」が行われました。これは、小正月（1月15日）に行われる火祭りです。正月に使ったしめ縄やしめ飾り、神札などを持ち寄って燃やし、その火にあたり餅を焼いて食べるなどして、無病息災を願う日本の伝統的な行事です。

町内各地区 どんど焼きの様子

◆ 塚脇どんど焼き ◆

1月14日（土）、組み立てられたやぐらは年男女女によって点火され、パチパチと大きな音をたてながら燃え上がりました。また会場では、実行委員会が用意したぜんざいや豚汁・焼き鳥・かつぼ酒が振舞われ、「体が温まった」と参加者に喜ばれていました。



神職による祭儀



燃え上がるやぐら

◆ 寺村どんど焼き ◆



老若男女約30人が参加

寺村地区（山田東）では、30年以上続くどんど焼きが1月15日（日）10時よりあり、雪の舞い散る中、やぐらは火柱をあげました。 “どんど”の火にあれば、その年を元気で無事に過ごせる”や”どんどの火で焼いた団子を食べると虫歯にならない”などのいわれがあります。 火で温まりながら、振る舞いのぜんざいをいただきました。 今年の無病息災を祈願しました。

◆ 瀬戸口どんど焼き ◆



20人が参加

山田西の瀬戸口地区では青壮年部によるどんど焼きが行われました。1月14日（土）午後5時に神事、午後6時より火入れ。 また、笹ヶ原地区でも青年部によるどんど焼きが同じく1月14日に行われました。

◆ 鎗水「俵投げ」 ◆

鎗水地区（大隈）では小正月の前夜に無病息災や五穀豊穰を願う「俵投げ」を、地区の子どもたちが各家庭を回り『秋穂から来た福俵、どうぞかつさり祝うちよくれ』と元気な口上が今年も玄関に響いた。

このような冬の風物詩である「どんど焼き」や「福俵投げ」、「もぐら打ち」などの伝統行事の継承がでなくなつた地区も多い。28戸で集落を形成している鎗水地区も例外ではなく、一度は伝統行事が消滅し、約30年前に復活して今日まで継承してきたが子ども会への加入も減り「今年でやめようか」と赤信号が点滅している。

この光景が昔話にならない事を願いつつ、伝統行事の継承について地区住民と考えていきたい。



元気に口上を述べる子どもたち